

参与室

常勤4人の参与・審議役及び3人の客員研究員がいます。それぞれ、鋼／コンクリート構造、地盤、波浪／流体等の専門家で、CDIT受託業務へのアドバイス（時には管理技術者）、確認審査業務（洋上風力発電を含む）及び整備局からの個別相談への対応等を行っています。また、ISO規格の審議、PIANC/WGへの参画、土木学会の各種活動への対応などの対外的活動も行っています。センター北側隅の狭い部屋ですが、是非、お立ち寄り下さい。



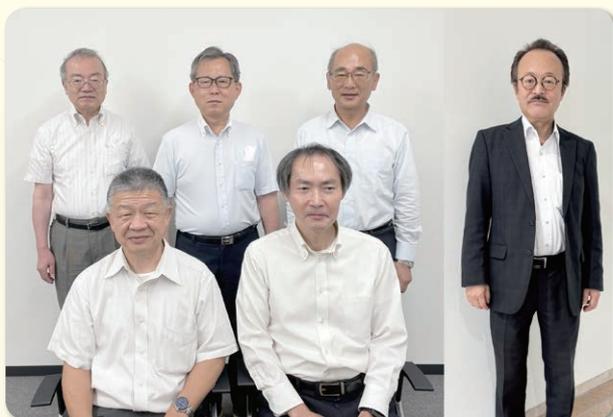
東北支部

東北支部は2015年に設置され、東日本大震災の復旧事業や東北地方を中心とした港湾等整備の円滑な推進に寄与すべく、様々な技術課題に取り組んで参りました。最近では洋上風力発電基地港湾の岸壁構造等の検討のほか、大水深既設栈橋の耐震化や港湾施設の長寿命化への対応、さらには東北港湾の技術ビジョン策定や人材育成メニューの検討などを行っており、地域の技術課題の解決に向け、本部の協力を得ながら進めています。



関西支部

関西支部は、2008年（平成20年）に神戸市に開設され、今年16年目を迎えます。関西支部は、主に近畿、中国、四国地方を担当エリアとして営業を行っており、港湾、海岸、空港のプロジェクトに関する技術的課題の解決に向けた取り組み等を調査部と協力しながら進めているところです。今後も、大規模地震災害、地球温暖化による気候変動、老朽化インフラ等の技術的課題への対応や、インフラ分野のDXの推進等に向けて取り組んでいきます。



九州支部

九州・下関地方は、台風の常襲地帯であり、気候変動による高波・高潮などの災害リスクの高まりや軟弱地盤、シラス大地など地域特有の課題があります。平成19年に九州沿岸技術交流室としてスタートした九州支部では、港湾施設や海岸保全施設等の設計や防災・減災に関する対応について、国や港湾管理者から受託した様々な技術課題に係わる調査研究を実施してきました。今後も地域の技術課題の解決に貢献する九州支部として、その役目を果たしていきます。

